独立行政法人
国立病院機構

# 相模原病院からの

http://www.hosp.go.jp/~sagami/

# 耳よりいいメール

国立病院機構 相模原病院　広報誌
平成27年3月13日号
発　行：国立病院機構 相模原病院
発行責任者：金田悟郎
住　所：相模原市南区桜台18-1
電　話：042-742-8311（代表）
ＦＡＸ：042-742-5314

## 第64号

九都県市合同防災訓練　当院参加メンバー（後ろは当院に配備された救急車）

## 第64号 目次

◆「病院長挨拶」…… 2
◆「おいしいパンが焼けたよ♡」
～米粉メニューの輝ける未来～…… 3
◆「看護部長に就任して」…… 6
◆「相模原病院に就職して」…… 7
◆「九都県市合同防災訓練に参加しました」‥ 8
◆「朱杯の記憶」…… 9
連載 近隣協力医療施設の紹介コーナー
相模原市 南区
「東大沼内科クリニック」……10

SAGAMIHARA
NATIONAL
HOSPITAL

私たちは患者の皆さまの人権を尊重し、十分な説明と同意に基づき親切で心のこもった医療を提供します。

## 「病院長挨拶」

病院長
金田　悟郎

このたび平成27年1月より当相模原病院長に就任いたしました。

私が相模原病院に赴任したのは平成3年4月でした。それ以前私は2年間北ドイツのBraunschweig(ブラウンシュヴァイク)市民病院に臨床医として勤務しており、内視鏡治療、手術などを行っていました。ただ当時、日本の実践病院への現場復帰には少なからず不安を抱いていました。当時の外科医長の高橋俊毅先生（元当相模原病院長）は私の学生時代以来の大恩師で、大変厳しい先生でもありました。赴任時、大変緊張して先生にご挨拶に行ったことを今でも覚えています。このとき一緒に赴任したのが私の学生時代からの同級生で、ラグビー部でも一緒であった、当院元外科医長（現非常勤医師）の雨宮明文先生でした。彼の存在はとても大きなもので、以後彼とともに14年間本院で仕事できたことは私にとってかけがえのないものとなりました。また、私たちより数か月先に赴任した安達先生（現副院長）も学生からの同期で、彼とはこれから現在まで25年間にわたり苦楽を共にすることになりました。不思議なことに学生の同期は当院にもう一人、脳外科医長の諏訪先生がいます。このように大学の同級生と当相模原病院で長きにわたり一緒に仕事ができるということは、私にとって大変ありがたいことだと思っています。

《ドイツ時代の筆者（左から２人目）》

私の赴任当時の外科は、高橋俊毅医長を筆頭として、秋山憲義医長（元外科系部長）・箕浦宏彦先生・古波倉史子先生・雨宮明文先生、私という6人のスタッフに北里大学から6人のレジデント、研修医というメンバーで頑張っていました。診療内容は今とほぼ同様に、消化器外科を中心とし、更に秋山先生の専門である乳腺外科も積極的に行っていました。平成3年6月からは、現在では全手術例の2/3に達する腹腔鏡下手術をいち早く導入しました。また現在では一般に普及したフレキシブルスコープによる内視鏡治療も消化器内科の安達先生とともに積極的に施行し、これらが現在の当院消化器診療の基礎を築いているといっても過言ではないと思います。それからの10数年は今考えますと、全力疾走で駆け抜けてきたような気がします。ちょうど時代的に医療技術、機器、薬品などの開発が目覚ましく、後ろを振り返る暇もなかったような思いがします。その後、全国の国立病院が独立行政法人化した後の平成18年からは私は当院の統括診療部長となり、その後平成21年からは副院長として臨床および病院管理業務を行ってきました。しかし以前のように皆様に密接した臨床の場から離れざるを得ないことは、一外科医としてはさみしい限りです。しかし、これも順番で、素晴らしい後進の先生がたくさん育ってきております。今後は院長として、皆様によりよき医療をご提供できるようにさらなる努力をいたす所存であります。

# 「おいしいパンが焼けたよ♡」

## ～米粉メニューの輝ける未来～

栄養管理室
管理栄養士
齊藤　彩子

昨年度より、栄養管理室では小児食物アレルギー食の充実に向けた取り組みを行ってきました。その結果、「できることから始めよう！国立病院機構QC（※Quality Control＝品質管理、業務改善）活動奨励表彰」にて、優秀賞をいただく事ができました。

《優秀賞の表彰状》

《主要食物アレルゲン10項目》

食物アレルギーは様々ですが、当院栄養管理室では主に、食物アレルゲン10項目（卵、乳、小麦、そば、落花生、ナッツ類、ゴマ、魚卵、軟体類、山芋）を除去した小児アレルギー食の提供を行っています。

食物アレルギー食に使用できる食材には限界があり、除去する食品が多い程、メニューの幅を広げる事は困難でした。しかし、入院食物負荷試験を頑張って受けた患児に対し、安全で美味しいと喜んでもらえる食事を提供したい、食物アレルギー制限のない子供達と同様にバリエーション豊かなメニューを取り入れ、子供達の食事の幅を広げたいと思い、日頃から頭を悩ませていました。

年齢別原因食品

| 年齢群 | 0歳 | 1歳 | 2、3歳 | 4～6歳 | 7～19歳 | 20歳以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 症例数 | 1270 | 699 | 594 | 454 | 499 | 366 | 3882 |
| 第1位 | 鶏卵 62.1% | 鶏卵 44.6% | 鶏卵 30.1% | 鶏卵 23.3% | 甲殻類 16.0% | 甲殻類 18.0% | 鶏卵 38.3% |
| 第2位 | 牛乳 20.1% | 牛乳 15.9% | 牛乳 19.7% | 牛乳 18.5% | 鶏卵 15.2% | 小麦 14.8% | 牛乳 15.9% |
| 第3位 | 小麦 7.1% | 小麦 7.0% | 小麦 7.7% | 甲殻類 9.0% | ソバ 10.8% | 果物類 12.8% | 小麦 8.0% |
| 第4位 | | 魚卵 6.7% | ピーナッツ 5.2% | 果物類 8.8% | 小麦 9.6% | 魚類 11.2% | 甲殻類 6.2% |
| 第5位 | | | 甲殻類 果物類 5.1% | ピーナッツ 6.2% | 果物類 9.0% | そば 7.1% | 果物類 6.0% |
| 第6位 | | | | ソバ 5.9% | 牛乳 8.2% | 鶏卵 6.6% | ソバ 4.6% |
| 第7位 | | | | 小麦 5.3% | 魚類 7.4% | | 魚類 4.4% |

※今井孝成、海老澤元宏：平成14年・17年度厚生労働科学研究報告書より

そのような中、2013年10月に調理師が参加した「食品開発展」で、米粉と出会いました。米粉は、その名の通りお米を粉にしたもので、小麦粉の代替として様々な料理に利用でき、メニューの幅を広げる事が可能となります。この米粉との出会いから、米粉を使用したパンや洋食メニューの提供に向けて、試作を繰り返しました。

そして、初の提供として、同年クリスマスに米粉ハンバーガーや米粉ケーキの提供を行い、子供達から、「可愛い」、「美味しい」、「わくわくして楽しい」等の感想をいただきました。

その後、メニューの開発も進み、週1回の定期的な米粉パンの提供の結果、米粉パンは「味覚や食感がとても良い」と大変好評でした。

また、食事の提供のみならず、保護者からレシピ提供の要望があったレシピカードの配布も開始しました。

アンケート結果を受け、食べたいと希望の多かった麺類の試作も繰り返し、米粉スパゲティや米粉カレーうどん等の提供も開始しました。

更に、米粉パンのレシピ拡大に向けて、惣菜パンや菓子パンのレシピが完成したため、順次献立に取り入れています。

患者さんと接する機会の少ない調理師も管理栄養士と共に、子供達やそのご家族の貴重な意見を伺う事で、更に食物アレルギー食を充実させたいという気持ちが強まりました。

患児の食生活をより豊かにするため、これからも心のこもった食事提供を心がけて参ります。

《栄養管理室 with 米粉パン》

# 「看護部長に就任して」

看護部長
片岡　亮子

《研修会での様子》

平成26年4月1日付で高崎総合医療センターから異動してきました看護部長の片岡です。

引継ぎの日、初めての土地なので駅からタクシーを利用しました。運転手から「国立」と呼ばれており「頼りになる病院」との言葉があり、地域に根差し信頼されていることを強く感じました。

相模原病院は平成23年9月に地域医療支援病院に承認されました。地域に密着し信頼されて選ばれる病院になるためには、「断らない医療」をしっかり実践していく必要があります。そのためには職員全員が地域医療支援病院としての当院の役割を認識していることが大切です。

《熱心に講義に耳を傾ける受講者たち》

今年度、看護部では退院調整に力を入れ退院支援リンクナース会を発足しました。はじめは暗中模索の状態でした。しかし、退院調整看護師養成研修受講者等からの講義を受け看護単位での事例検討を重ねることで、少しずつではありますが退院支援が進むようになってきました。看護師個々が入院時から退院に向けた看護を意識するように変化してきたからだと思います。

今後も一つひとつの事例を積み重ね、経験年数が少ない看護職員も当たり前に退院支援ができるように育成していきたいと考えています。

《介護職対象ストーマケア公開講座の様子》

2点目に考えることは看護部としての地域への貢献です。当院には認定看護師など各種の資格を持つ看護職員が多数おります。院内講師をするだけでなく、地域での勉強会や講演会へも出張していくことで皆さまとともに成長していきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

# 「相模原病院に就職して」

2階南病棟　看護師
城　茂原（しげはる）

私は、4月から相模原病院で看護師として働いています。高校生時代に事故で左肩が動かなくなり、リハビリに励んでいる中で看護師さんから優しく声をかけ励ましてもらいました。いつかは自分もそうなりたいと思い、看護専門学校への進学を決めました。

入職当初は不安がありましたが、今は先輩方の解かりやすいご指導のおかげで病院勤務に少しずつではありますが慣れてきています。現場は毎日が勉強で、基本の応用が必要です。

《今日も笑顔でがんばっています！》

その中で師長さんやプリセプターさんをはじめとする先輩看護師さんの皆さんから優しく丁寧に指導して頂き、良い環境の中で毎日新しい学びや技術・知識を深めることができています。

まだまだ未熟で一人で行える技術は少ないですが、今後自信とやりがいを持って患者さんが笑顔になるような看護を行えるよう頑張っていきたいと思います。

2階北病棟　助産師
佐久間　結生（ゆい）

4年間保育士として働いていましたが、毎日子どもたちや親御さんと関わる中で、親子のスタートに関わりたいという思いを強くし、看護の世界に飛び込みました。看護学校・助産学校と4年間の学生生活を経て、4月に新人助産師として当院の産婦人科病棟に就職することができました。

まずは婦人科チームからのスタートでしたが、看護未経験の自分にとっては、看護の基礎を学ぶ良い経験になったと思います。新生児室での業務を覚え始め、これまでとは違う経験ばかりで戸惑うことも多くありますが、親子のスタートに関われることに喜びを感じています。

赤ちゃんとお母さん、先輩方からたくさんの学びを得ながら、助産師として一歩いっぽ、成長していけたらと思います。

《病棟で誕生した赤ちゃんと記念撮影》
※撮影・掲載許可をいただいております。

# 「九都県市合同防災訓練に参加しました」

管理課長
香川　祐一朗

9月1日「防災の日」、第35回九都県市合同防災訓練が在日米軍相模原総合補給廠(ほきゅうしょう)を主会場として実施され各都県市の関係機関及び市民1万人が参加する中、当院は医療救護班として参加しました。

訓練は午前10時、相模原市を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生したとの想定で始まり警察・消防の各隊員が連携し負傷者の発見から救助までの一連の流れから神奈川県、東京都のＤＭＡＴや在日米陸軍など11機関による傷病の程度に応じ(トリアージ)順位付けする訓練を行い、当院部隊はトリアージを任され活躍をしたところです。

当院は26年3月に「神奈川県災害協力病院」に指定され、それ以後災害時医療の研修等積極的に参加し災害時の意識を高めて来たところで、今般の合同防災訓練ではその実践が試されたところですが他の医療機関と連携し当院の役割が確認出来ました。

金田副院長(現院長)は参加した隊員へ、「いつ起きるかわからない災害に向け、皆を中心に今後も平素から実践的な訓練を重ね、備えを確かなものにしてほしい」と話しました。

《乗用車内にとりのこされた負傷者を救助する訓練。》

《模擬ビル屋上に避難した被災者を救助する訓練。》

《新たに配備された救急車で訓練に出発！》

参加した隊員からは「今後も更に災害時医療の充実を図りたい」との発言がありました。

訓練に参加した隊員の皆様、お疲れ様でした。

# 「朱杯の記憶」

事務部
経営企画係長
冨永　泰平

ある日、
「父の遺品を整理していたら、朱塗りの『杯』が出てきたので調べてみると、相模原病院の前身のものであることが分かりました。
父は戦争で負傷して入院していたと聞いていましたが、詳しいことは語りたがらなかった…これは資料として病院に寄贈します。」
とのお申し出がありました。

送られてきた包みの中には一口の古い朱杯が丁寧に梱包されていて、底に『天恩無窮』、縁に『臨時東京第三陸軍病院在院記念』の文字がありました。「臨時東京第三陸軍病院」というのは、相模原病院が終戦後に厚生省に移管される前の名称です。私自身、国立病院（現独立行政法人国立病院機構）の前身が旧陸海軍病院であるということは知識としては知っていたのですが、どのような病院だったのか、「臨時」とはどのような意味だったのか、興味を引かれて簡単に調べてみました。

《天恩無窮》

右から《臨時東京第三…》

《…陸軍病院…》

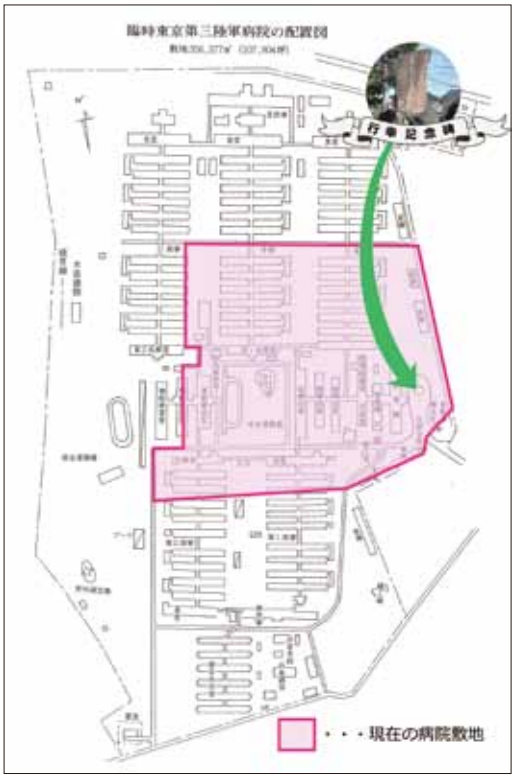
《…在院記念》

「臨時東京第三陸軍病院」は、昭和13年4月に当時の区分としては“野戦病院(このため、「臨時」の名がつく)”として発足しました。野戦病院というと、テントの下であわただしく応急処置をしている光景を思い浮かべますが、実際には、主に戦場での傷病に対する一次的な処置が終わった後のリハビリ・職業訓練の場としての役割を担っていました。

またその規模は、時には6000人もの患者さんを収容することがあったことからも想像されるように、非常に大きな、当時の東日本最大の医療機関でした（現在の敷地面積の約3倍。右図参照。）。

一方で、現代の病院の様子からは不思議に思えますが、入院患者さんのほとんどが日常生活を独力で送ることが出来るため、看護師の数が非常に少なく(5、6人)、病院の敷地内には、運動場や娯楽施設としての演劇場・相撲場などがあり、病院内で生活が完結するような環境だったようです。

現在では「臨時東京第三陸軍病院」をしのぶ物といっては、昭和14年に昭和天皇のご訪問を記念して建立された「行幸記念碑」しか残っていませんが、今回いただいた朱杯がきっかけとなって、往時の記録を新たにすることが出来たのは良い経験でした。



《臨時東京第三陸軍病院の敷地》

連載

# 近隣協力医療施設の紹介コーナー

## 相模原市 南区
## 「東大沼内科クリニック」

院長
**髙田　信和 先生**

平成21年に東大沼に内科・呼吸器内科の診療所を開業しました。北里大学の呼吸器内科出身です。勤務医時代には難しかった「ひとりひとりの患者さんに寄り添う医療」をモットーに、総合的な内科診療、専門的な呼吸器疾患診療、在宅診療の3本柱を掲げております。しかし在宅診療については時間的な余裕がなく、まだ限られた患者さんのみしか訪問診療はできておりません。

当院と相模原病院は渋滞がなければ、車で約10分の距離です。場所も近いため、各診療科の先生方には、開業時から多くの患者さんを受けていただき、深謝しております。

CT、MRIのオンライン予約システムは頻繁に利用させていただいております。放射線科の先生の詳細で迅速なご報告は、患者さんにも大変喜ばれております。

現在、アレルギー科の粒来先生を中心に、気管支喘息患者さんを対象とした、相模原病院と開業医とのより円滑な病診連携システム作りを進めております。

これは普段、安定しているときは近所の診療所に通院し、発作が頻回で重症化した時や精密検査が必要な時は相模原病院を受診できるしくみになっております。つまり相模原病院と診療所、2人の主治医で患者さんをサポートする体制です。

多くの喘息患者さんがこの病診連携システムを利用し、喘息発作ゼロで、安心して過ごせるように、少しでもお役にたてればと思います。

**【東大沼内科クリニック】**

診療科：内科、呼吸器内科

休診日：木曜日、土曜日午後、日曜日、祝祭日

| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日祝 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:00 ～ 12:00 | ○ | ○ | ○ | － | ○ | ○ | － |
| 14:30 ～ 18:00 | ○ | ○ | ○ | － | ○ | － | － |

※土曜日の診察は9:00～12:30です。

電　話：042-767-0170

ホームページ：http://www.higashiohnuma-clinic.com/

住　所：〒252-0333
神奈川県相模原市南区東大沼1-12-43